

第2次生物多様性かぞ戦略

～ 豊かな自然と共生するまちの実現に向けて ～

概要版



令和3年3月

加 須 市

🌸 生物多様性って何だろう

1 生物多様性とは

生物多様性とは、動物・植物や菌類、バクテリアなど、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。地球上には森、里、川、海など様々なタイプの自然の中に、それぞれの環境に適応して進化した3,000万種ともいわれる多様な個性を持つ生きものが、お互いにつながりあい、支えあって生きています。

生物多様性条約では、生物多様性をすべての生きものの中に違いがあることと定義し、生態系の多様性、種間（種）の多様性、種内（遺伝子）の多様性という3つのレベルでの多様性があるとしています。

① 生態系の多様性



森、里、川、海などいろいろなタイプの生態系があります。

地球上、あるいは特定の地域に様々なタイプの自然があることです。例えば、干潟、サンゴ礁、自然林や里山林、人工林などの森林、湿原、大小の河川などがそれぞれの地域の特徴をもって存在していることが挙げられます。

② 種の多様性



鳥、魚、植物などいろいろな種類の生きものがいます。

地球上、あるいは特定の地域に様々な種類の動物・植物や菌類、バクテリアなどが生息・生育している状況のことです。日本は、南北に長く複雑な地形を持ち、湿潤で豊富な降水量と四季の変化もあって、様々な種類の生きものが生息・生育しています。

③ 遺伝子の多様性



同じ種でも異なる遺伝子を持ち、形や模様、生態などに多様な個性があります。

同じ種であっても、個体や個体群の間に遺伝子レベルでは違いがあることです。例えば、ゲンジボタルの発光周期が中部山岳地帯の西側と東側で異なる、アサリの貝殻の模様が千差万別である、などの例があります。

2 生物多様性がもたらす恵み（生態系サービス）

恵み

私たちの暮らしは食料や水の供給、気候の安定など、多様な生きものが関わりあう生態系からの恵みによって支えられています。これらの生態系がもたらす恵みは「生態系サービス」と呼ばれ、4つのサービスに分類されます。



① 生きものがうみだす大気と水 （基盤サービス）

植物が酸素を生み、森林が水循環のバランスを整えるなど、生命の生存基盤は多くの生きものの営みによって支えられています。

② 暮らしの基礎 （供給サービス）

動物や植物は、私たちに食べ物・燃料・木材・医薬品などを供給します。

③ 文化の多様性を支える （文化的サービス）

多様な自然環境は、地域性豊かな伝統文化やレクリエーションの機会を提供します。

④ 自然に守られる私たちの暮らし （調整サービス）

豊かな森林や河川の保全は、安全な水の確保や土壌流出防止など、安心して暮らせる環境の確保につながります。

3 生物多様性の危機

危機

暮らしに様々な恵みをもたらす生物多様性が、私たちの活動の影響によって、4つの危機にさらされています。



① 第1の危機

開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少

鑑賞や商業利用のための乱獲・過剰な採取や埋め立てなどの開発によって生息環境を悪化・破壊するなど、人間活動が自然に与える影響は多大了。

② 第2の危機

里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下

二次林や採草場が利用されなくなったことで生態系のバランスが崩れ、里地里山の動植物が絶滅の危機にさらされています。また、シカやイノシシなどの個体数増加も地域の生態系に大きな影響を与えています。

③ 第3の危機

外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱

ブラックバスやアライグマなどの外来種が在来種を捕食したり、生息場所を奪ったり、交雑して遺伝的な攪乱をもたらしたりしています。また、化学物質の中には動植物への毒性をもつものがあり、それらが生態系に影響を与えています。

④ 第4の危機

地球環境の変化による危機

地球温暖化は国境を越えた大きな課題です。平均気温が1.5～2.5度上がると、氷が溶け出す時期が早まったり、高山帯が縮小されたり、海面温度が上昇したりすることによって、動植物の20～30%は絶滅のリスクが高まるといわれています。

❁ 加須市の自然・生きもの

1 特徴・地域性

本市は利根川の堆積で形成されたという平坦地で、水田が市域面積全体の35.6%を占める、埼玉一の米どころです。

屋敷林や社寺林とそれに連なる農村集落が点在する田園風景、日本を代表する河川の利根川やラムサール条約登録湿地の渡良瀬遊水地、農業用水路や浮野の里や風の里、オニバス自生地、お花が池を始めとする池沼など、多様な生きものが生息・生育する市特有の水辺が数多く存在し、平成27年8月には京丹後市から巣立ったコウノトリが飛来しました。

また、本市は埼玉県における希少野生植物が51種確認でき、市の地域性や特徴を踏まえた生物多様性の保全等には、様々な生きものが生息する水田を始め、池沼などの豊かな水辺環境を保全・活用していくことが大切です。

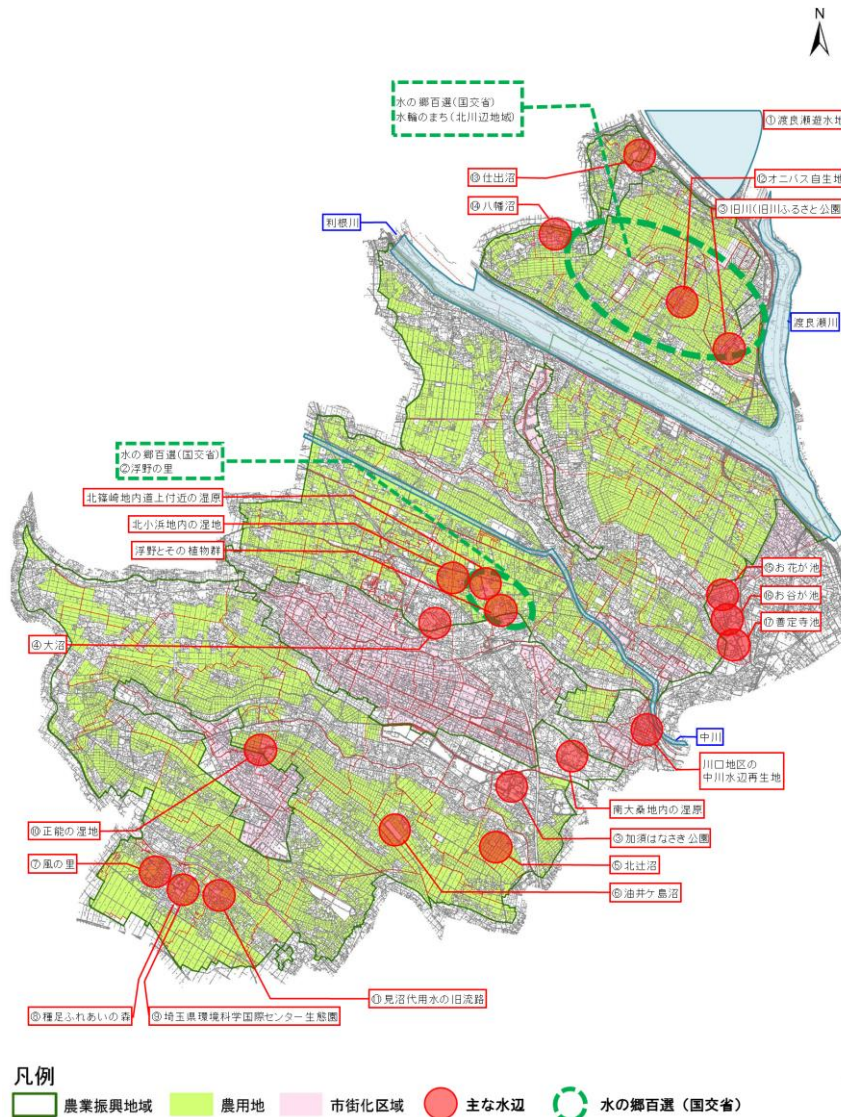
2 市内の自然環境

市内の自然環境は、大別すると「河川・水路」「池沼・調整池」「湿地」「水田」「屋敷林・雑木林」の5つのタイプに分類できます。



3 市内の主な水辺環境

多様な生きものが生息・生育する市特有の水辺が数多く存在しています。



4 市内の希少生物

次の生きものを始め、様々な希少生物が生息・生育しています。



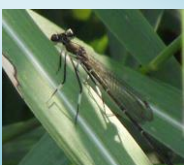
オオタカ
 ・県：絶滅危惧Ⅱ類
 ・国：準絶滅危惧



カワセミ
 ・県：絶滅のおそれのある地域個体群



メダカ
 ・県：絶滅危惧Ⅱ類
 ・国：絶滅危惧Ⅱ類



オオモノサシトンボ
 ・県：絶滅危惧Ⅰ類
 ・国：絶滅危惧Ⅰ類



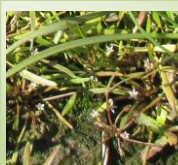
ノウルシ
 ・県：絶滅危惧Ⅱ類
 ・国：準絶滅危惧



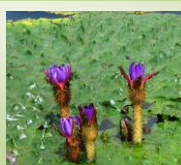
サンショウモ
 ・県：絶滅危惧ⅠB類
 ・国：準絶滅危惧



トキシウ
 ・県：絶滅危惧ⅠA類
 ・国：準絶滅危惧



キタミソウ
 ・県：絶滅危惧ⅠB類
 ・国：絶滅危惧Ⅱ類



オニバス
 ・県：絶滅危惧ⅠA類
 ・国：絶滅危惧Ⅱ類

❁ 生物多様性かぞ戦略とは

生物多様性かぞ戦略（以下、「かぞ戦略」という。）は、本市の生物多様性の保全及び持続可能な利用を通じて、「豊かな自然と共生したまち」を実現するための計画です。

令和3年度から令和7年度を計画期間として、長期的には生物多様性国家戦略の長期目標である2050年を視野に入れて取り組みます。

先人から受け継いだ水と緑に恵まれた環境を保全し、人と自然が共生できるまちづくりを推進するため、「知る」「守る」「活用する」の3つの目標を掲げ「かぞ戦略」を推進します。

■ かぞ戦略の基本目標

豊かな自然と共生するまちをつくる

～ 先人から受け継いだ水と緑に恵まれた環境を保全し、
人と自然が共生できるまちづくりを推進します ～

■ かぞ戦略の3つの目標

● 目標Ⅲ

市の自然環境の恵みを持続性を持って

活用する



● 目標Ⅰ

市の自然環境・生物多様性を

知る



● 目標Ⅱ

多様な生きものが育む自然環境を

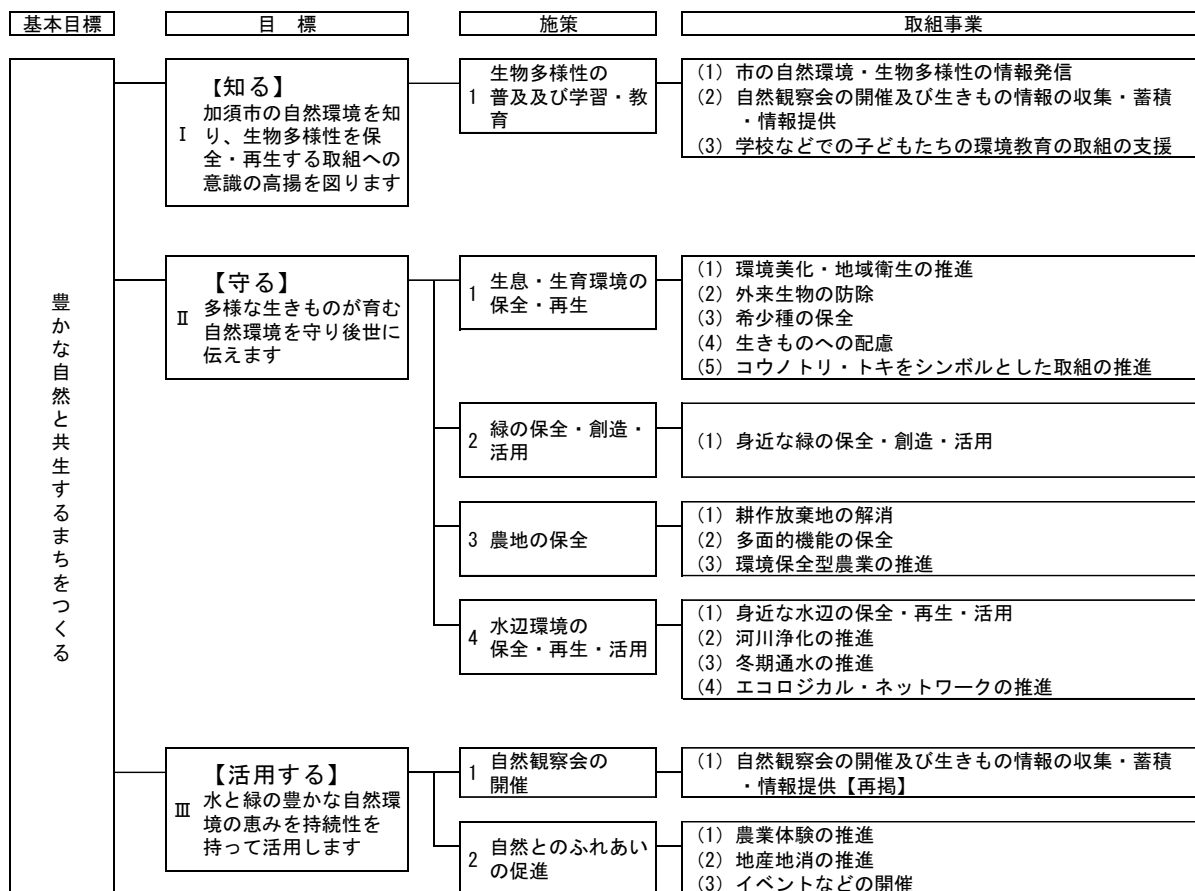
守る



豊かな
自然と
共生するまち
かぞ

■かぞ戦略の体系

基本目標に掲げる豊かな自然と共生するまちの実現に向けて、3つの目標、7つの施策により、生物多様性の保全及び持続可能な利用のための取組を推進します。



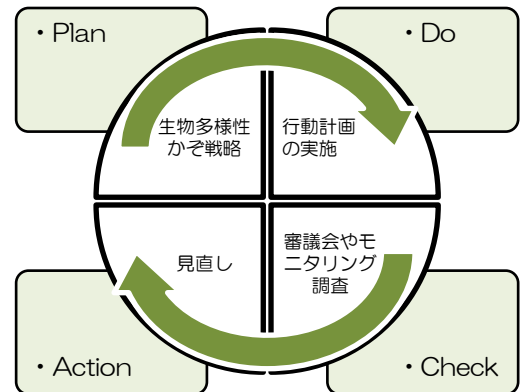
■進捗をはかる指標

かぞ戦略の進捗状況をはかるため、3つの目標毎に指標を設定し、取組事業を推進します。

	指標	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和7年度)
目標 I	生物多様性という言葉の知っている市民の割合	25%	50%以上
目標 II	埼玉県レッドデータブック 2011 植物編 埼玉県の希少野生生物に掲載された、市内の希少野生植物種の数	51 種	50 種以下
目標 III	生物基礎調査兼自然観察会	149 人	150 人
	オニバス自生地来訪者数	1,041 人	1,550 人
	利根川未来パーク構想に位置づけされている主なイベント・施設への来場者数	42 万人	42 万人
	渡良瀬遊水地まつり来場者数	4,500 人	5,500 人

❁かぞ戦略の推進

本戦略の進行管理は、「加須やぐるまマネジメント」に基づき、計画（Plan）、実施（Do）、点検・評価（Check）、見直し（Action）のサイクルにより、施策の進捗状況を毎年度点検・評価し、その結果を「加須市の環境」（環境の状況に関する報告書）としてとりまとめ、公表します。その結果を踏まえ、施策の進め方を見直し、計画期間終了時に本戦略の見直しを行います。



❁生物多様性の保全に向けて「私たちにできること」

私たちの暮らしを支える生物多様性が、私たち人間の活動の影響によって危機に瀕している…。私たちは、生物多様性を保全するために何ができるでしょうか？

生物多様性を保全していくための取組は、決して難しいことばかりではありません。

例えば

- 家の周りに樹木を植えるときは、もともとその地域に生えているものを使う
- 外国から持ち込まれた動物をペットとして飼う場合は、最後まで面倒を見て、決して野外に放さない
- 出かけた時はゴミを捨てずに持ち帰る
- むやみに野草を採ったり傷つけたりしない
- 野生動物にエサを与えない
- 河原や森林などでは、決められた場所以外に車を乗り入れない
- キッチン（台所）の流し台に使い終わった油や食べ残しを捨てない
- 殺虫剤や除草剤などをできるだけ使わない

などなど、ちょっとした工夫や心がけて、日常生活の中でできることはたくさんあります。



生物多様性かぞ戦略【概要版】

令和3年3月発行

発行 加須市
編集 環境安全部 環境政策課

〒347-8501 埼玉県加須市三俣二丁目1番地1
電話：0480-62-1111（代表）
FAX：0480-62-1934
電子メール：kankyo@city.kazo.lg.jp